

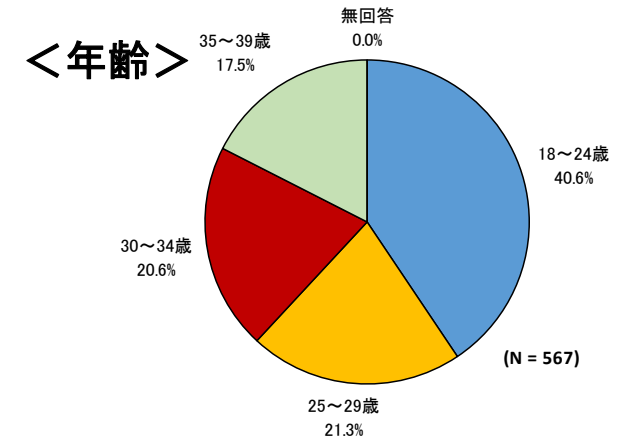
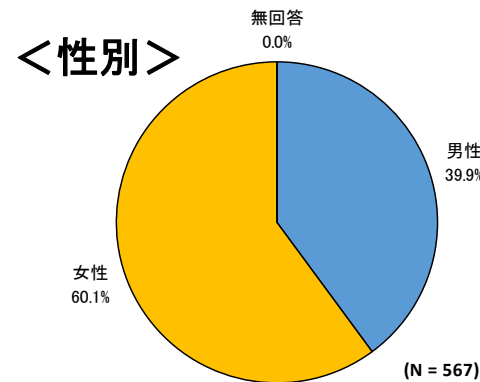
## 調査の概要

- (1) 調査対象 県内在住の18歳から39歳の男女2,000人
- (2) 抽出方法 住民基本台帳より層化無作為抽出
- (3) 調査方法 質問紙郵送、郵送回答及びインターネット回答
- (4) 調査期間 令和5年9月29日～10月13日
- (5) 回収結果 標本数：2,000人、回収数：576人（回収率28.8%）有効回収数：567人

## 主な調査項目

- 結婚についての考え
- 結婚した理由、結婚していない理由
- 出会いの環境
- 出産の希望
- 理想とする結婚後の働き方

## 回答者の属性



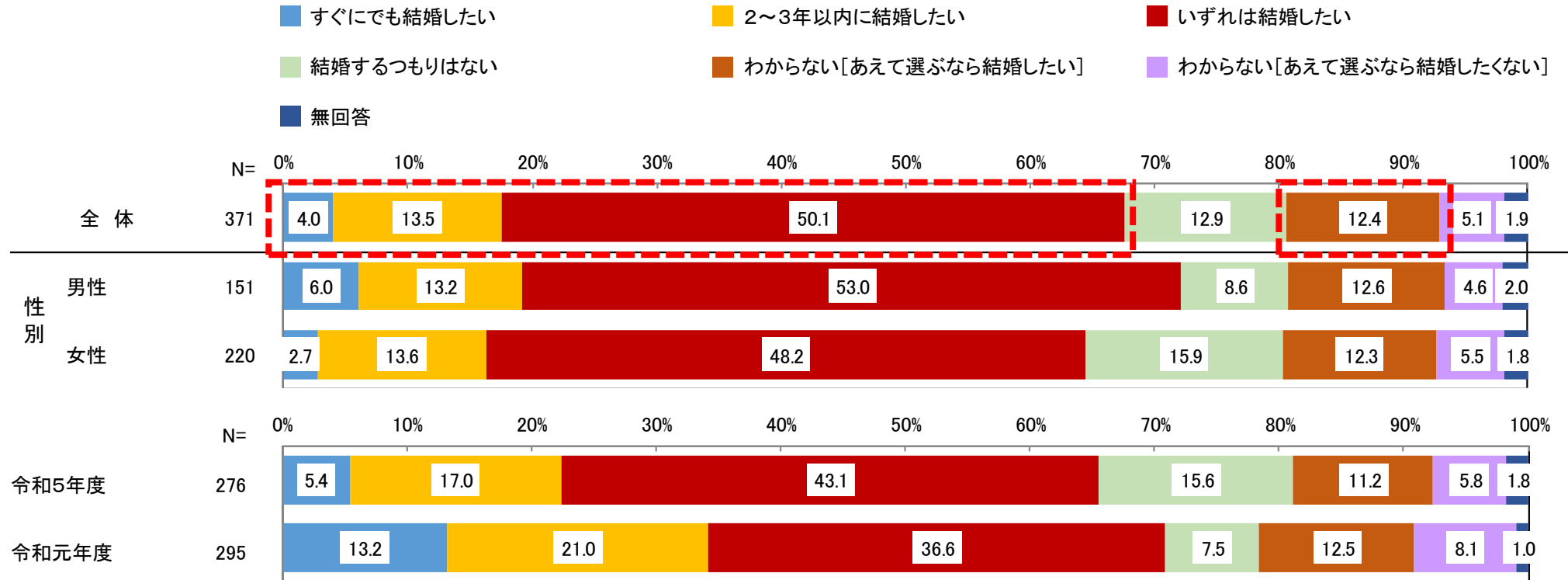
※比較に使用した前回調査は、令和元年度「結婚等に関する県民意識調査」（調査対象：県内在住の20代から30代の男女2,000人）である。

調査対象が異なるため、前回調査との比較においては、今回調査の回答のうち20代から30代のもののみを抽出している。

# 令和5年度結婚等に関する県民意識調査結果（中間報告）の概要

## 結婚していない人の自身の結婚の時期

- 現在結婚していない人のうち、時期を特定しなければ、80.0%は「結婚したい」（「すぐにでも結婚したい」「2～3年以内に結婚したい」「いずれは結婚したい」「わからない[あえて選ぶなら結婚したい]」）と回答している。
- 前回調査と比較すると、時期を特定せず「結婚したい」と回答した人は76.7%であり、前回の83.3%と比較して6.6ポイント減少した。



## 理想の結婚年齢

男性の平均	女性の平均
28.2歳	27.3歳

## 子ども(第1子)を持ちたい理想の年齢

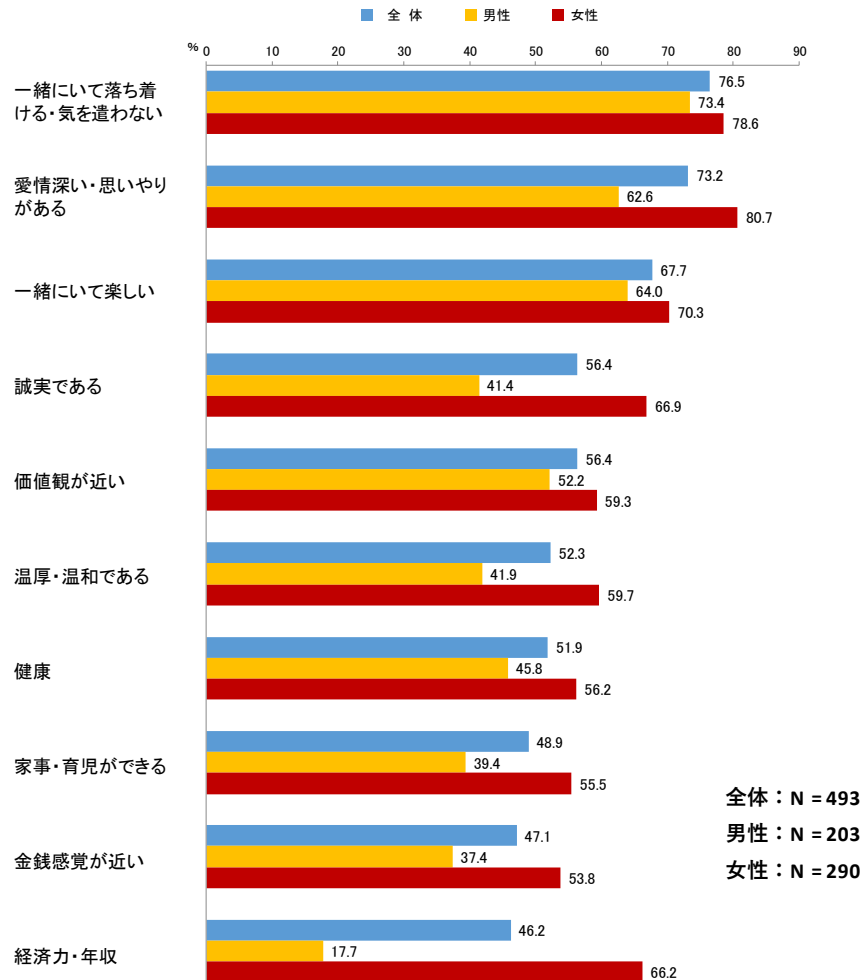
男性の平均	女性の平均
29.4歳	28.0歳

# 令和5年度結婚等に関する県民意識調査結果（中間報告）の概要

## 結婚相手に求める条件

（すでに結婚している人、将来結婚したい人：複数回答）

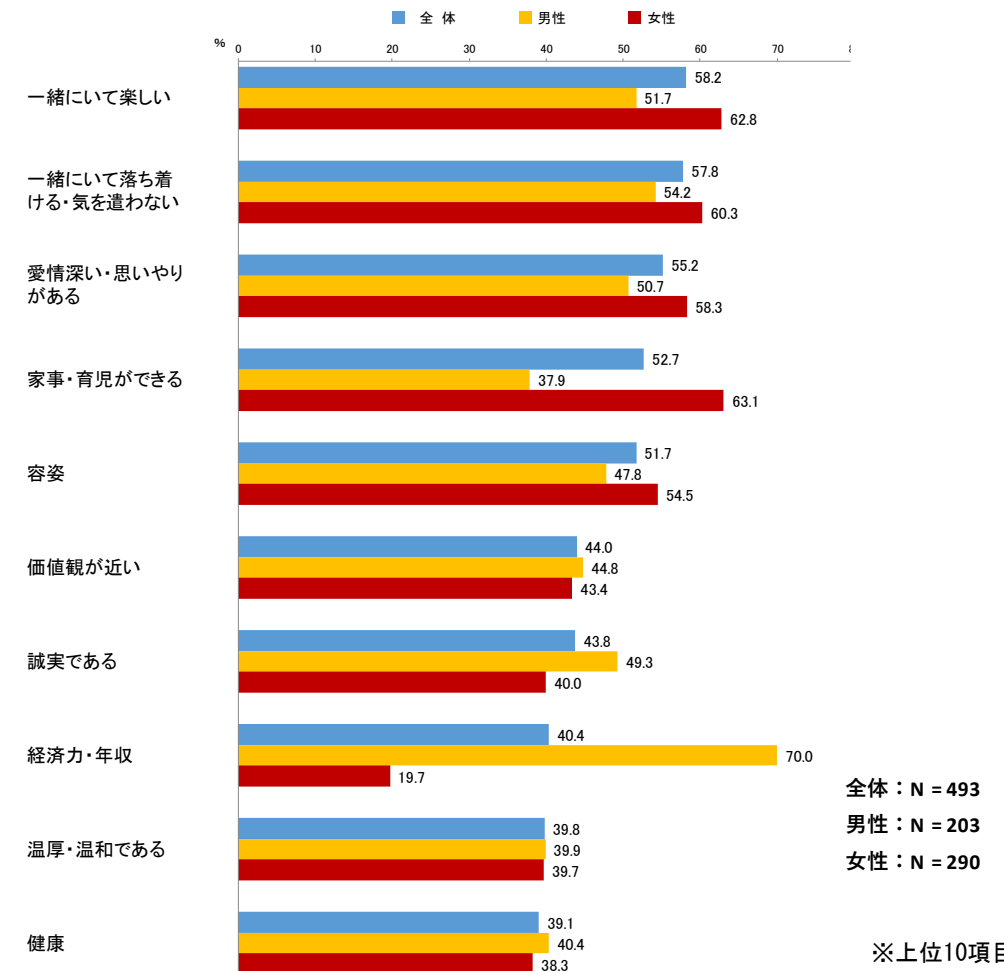
- 全体では「一緒にいて落ち着ける」が76.5%と最も高い。
- 男性では「一緒にいて落ち着ける」が73.4%で最も高い一方で、女性では「愛情深い・思いやりがある」が80.7%で最も高い。



## 異性から結婚相手として求められていると思う条件

（すでに結婚している人、将来結婚したい人：複数回答）

- 全体では「一緒にいて楽しい」が58.2%と最も高い。
- 男性では「経済力・年収」が70.0%で最も高い一方で、女性では「家事・育児ができる」が63.1%で最も高い。

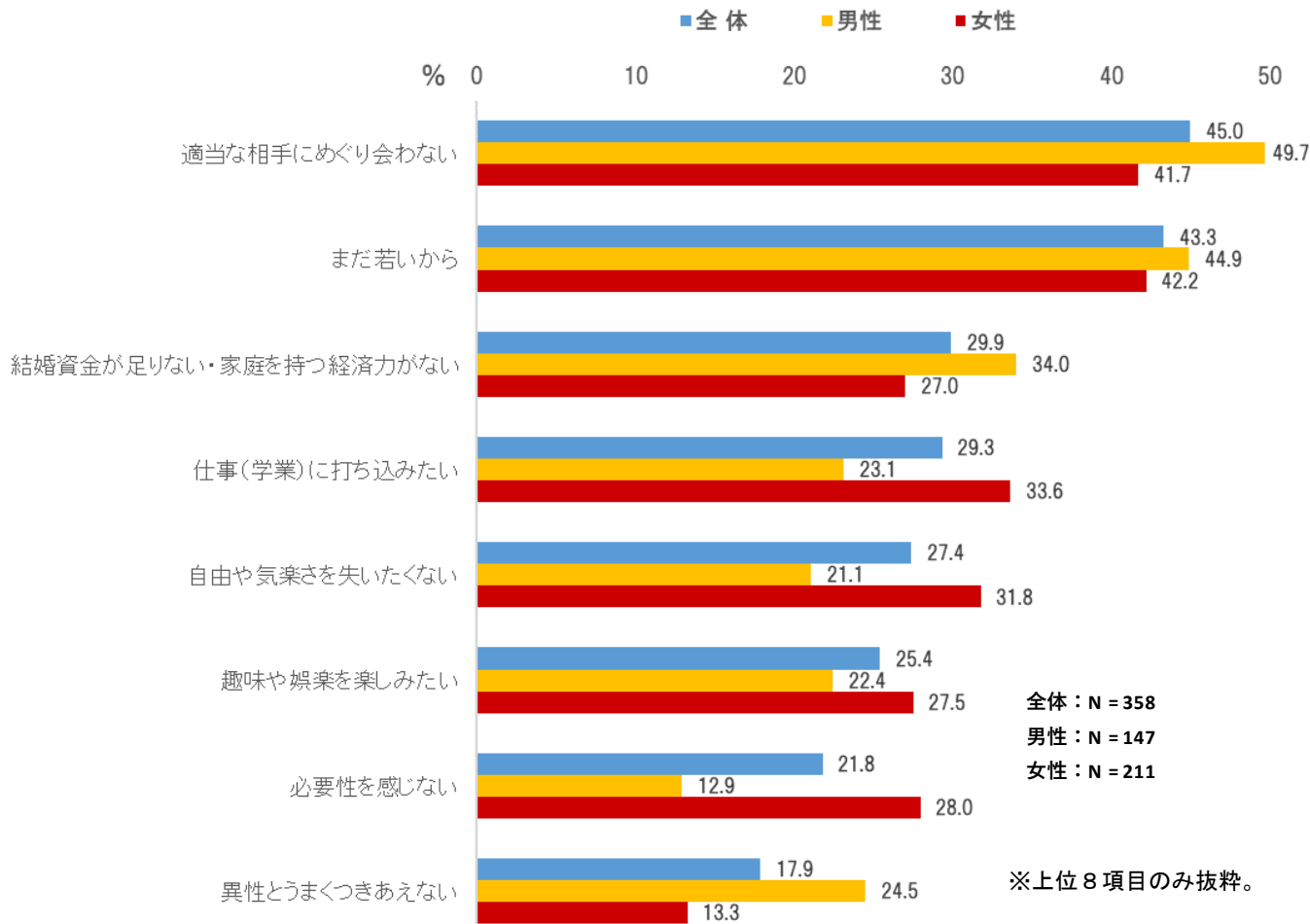


※上位10項目のみ抜粋。

# 令和5年度結婚等に関する県民意識調査結果（中間報告）の概要

## 現在結婚していない理由（「未婚」の人：上位3つまで）

- 全体では「適切な相手にめぐり会わない」が45.0%で最も高い。
- 男性の「異性とうまくつきあえない」が女性と比べて高く、女性の「仕事（学業）に打ち込みたい」「自由や気楽さを失いたくない」「必要性を感じない」が男性と比べて高い。
- 順位別では、全体・男女とも「まだ若いから」を1位として最も多く回答している。



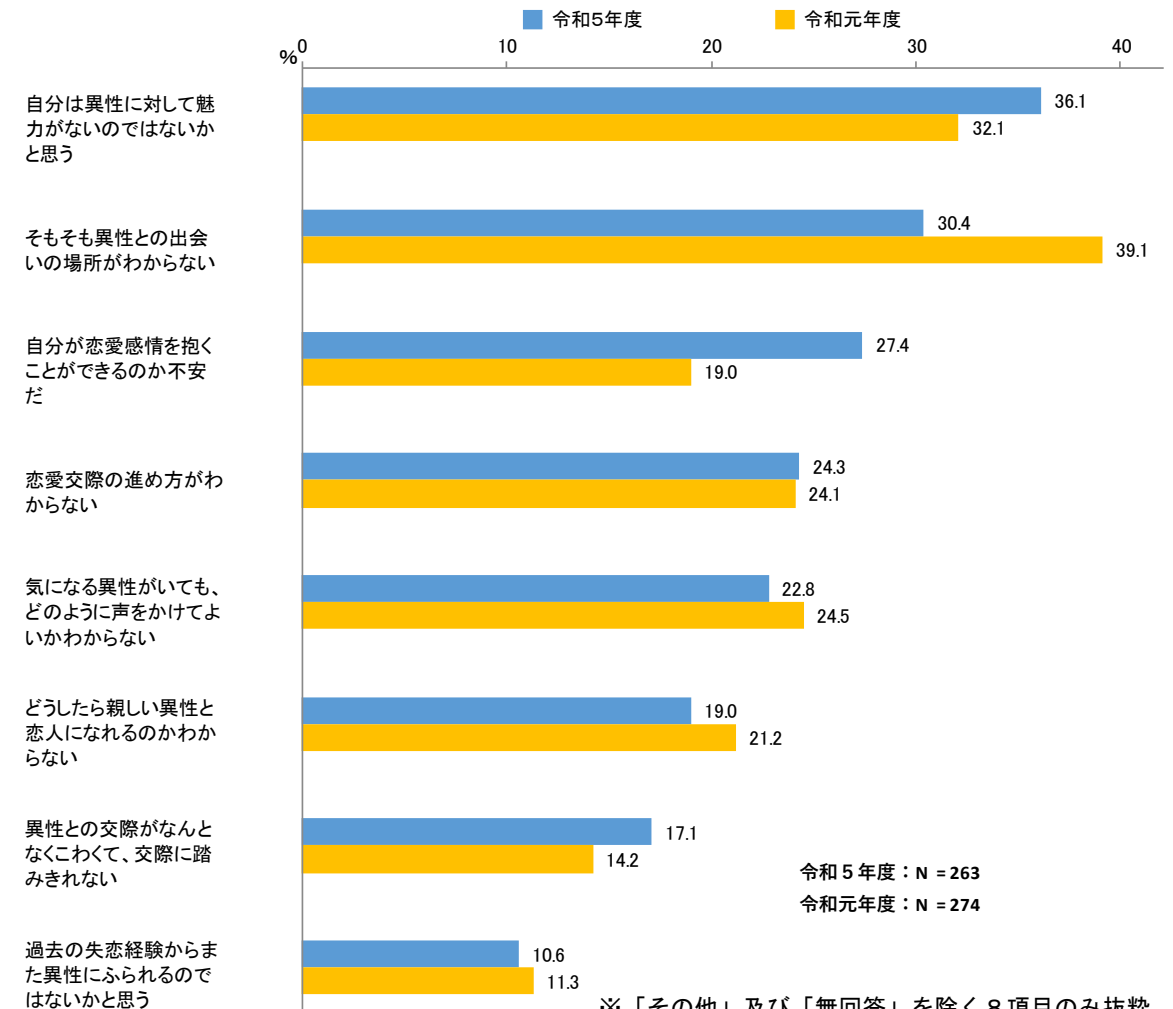
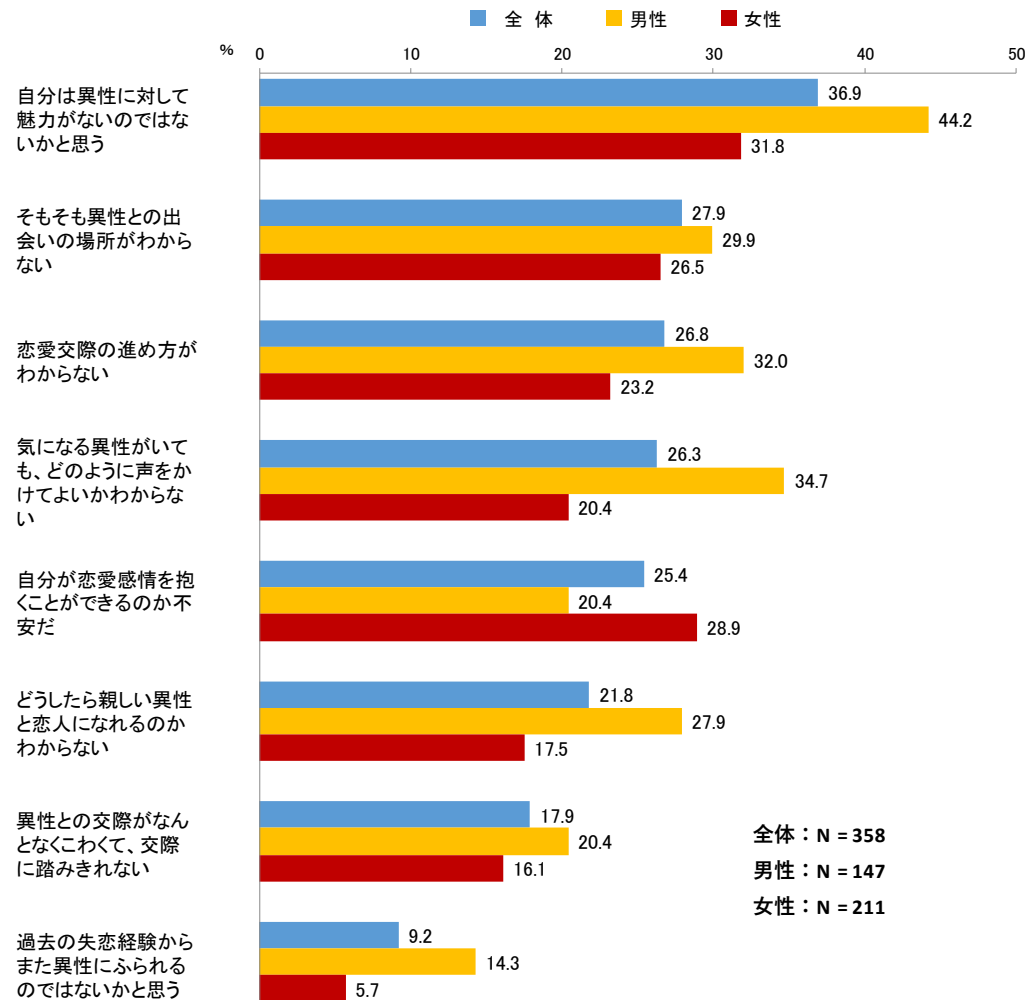
## ○「1位」として回答された項目（上位3つのみ掲載）

全体 (N=358)	
まだ若いから	27.7%
適切な相手にめぐり会わない	20.9%
結婚資金が足りない・家庭を持つ経済力がない	8.1%
男性 (N=147)	
まだ若いから	28.6%
適切な相手にめぐり会わない	22.4%
結婚資金が足りない・家庭を持つ経済力がない	12.2%
女性 (N=211)	
まだ若いから	27.0%
適切な相手にめぐり会わない	19.9%
仕事（学業）に打ち込みたい	11.4%

# 令和5年度結婚等に関する県民意識調査結果（中間報告）の概要

## 異性と交際するうえでの不安（「未婚」の人：複数回答）

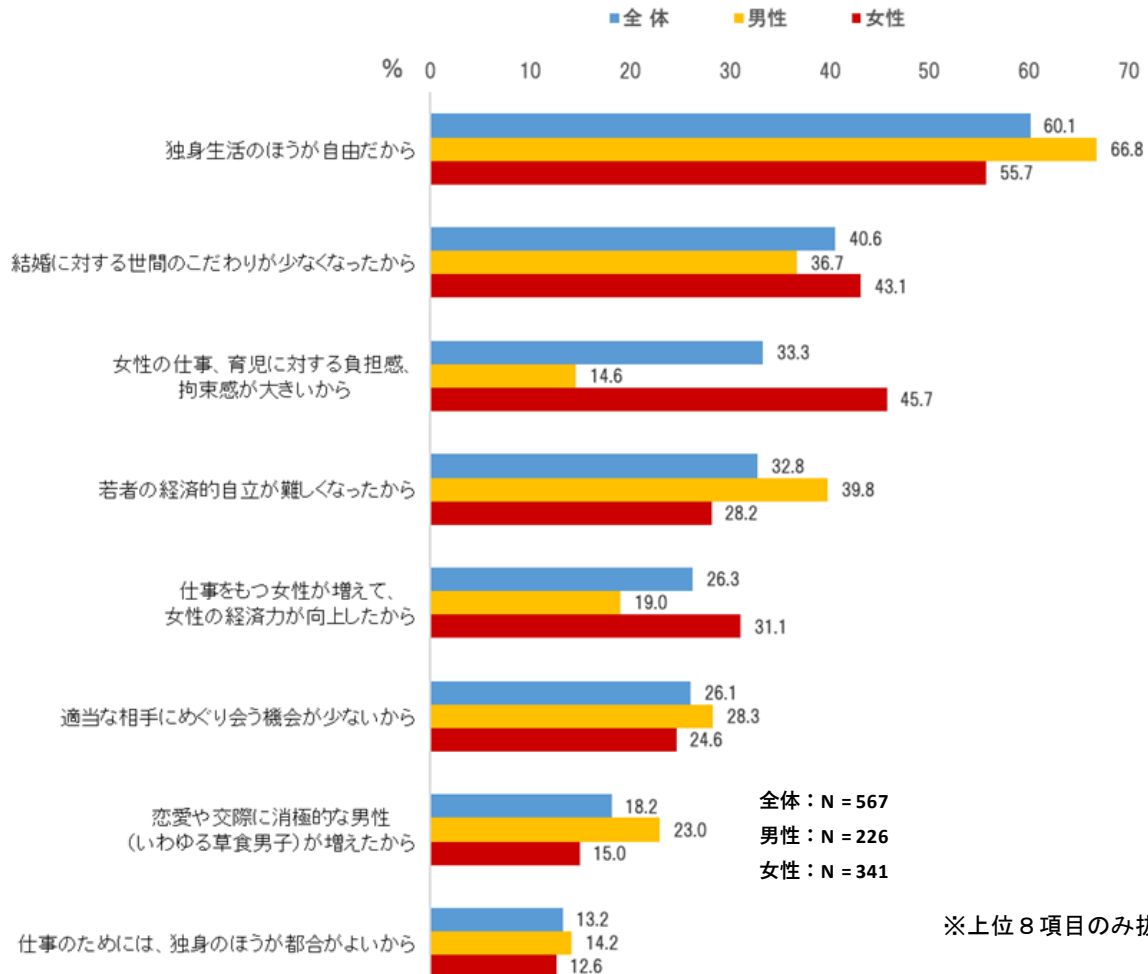
- 全体では「自分は異性に対して魅力がないのではないかと思う」が36.9%と最も高く、性別でも男女とも最も高い。
- 男性では次点で「気になる異性がいっても、どのように声をかけてよいかわからない」が34.7%で高く、女性では「自分が恋愛感情を抱くことができるのか不安だ」が28.9%で高い。



# 令和5年度結婚等に関する県民意識調査結果（中間報告）の概要

## 未婚化、晩婚化の理由（上位3つまで）

- 全体では「独身生活のほうが自由だから」が60.1%で最も高く、性別でみても男女とも最も高い。
- 女性の「女性の仕事、育児に対する負担感、拘束感が大きいから」「仕事を持つ女性が増えて、女性の経済力が向上したから」が男性と比べて高い。
- 順位別では、全体・男女とも「独身生活のほうが自由だから」を1位として最も多く回答している。



※上位8項目のみ抜粋。

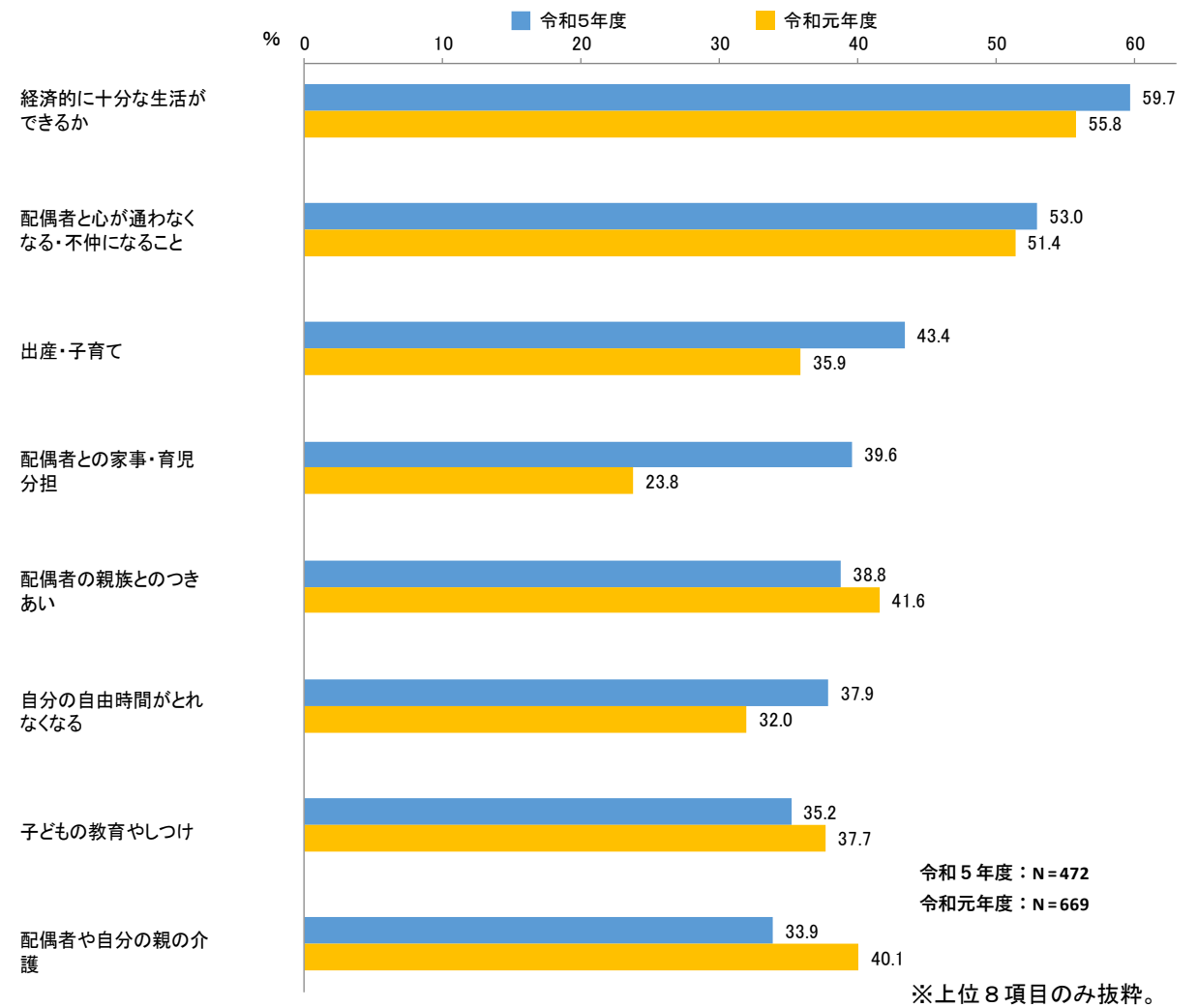
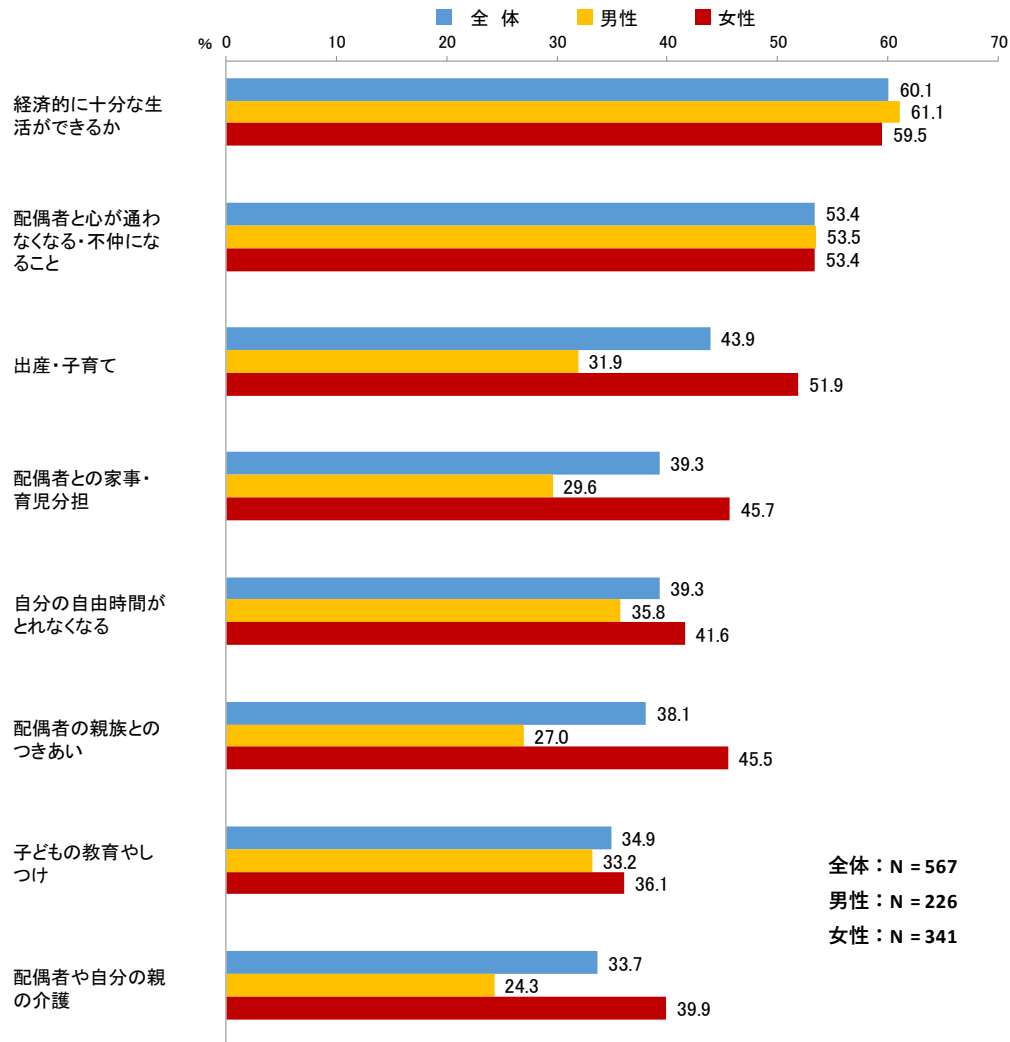
## ○「1位」として回答された項目（回答が多かった3つを記載）

全体 (N=567)	
独身生活のほうが自由だから	30.7%
若者の経済的自立が難しくなったから	18.3%
女性の仕事、育児に対する負担感、拘束感が大きいから	10.4%
男性 (N=226)	
独身生活のほうが自由だから	32.7%
若者の経済的自立が難しくなったから	25.7%
結婚に対する世間のこだわりが少なくなったから	8.0%
女性 (N=341)	
独身生活のほうが自由だから	29.3%
女性の仕事、育児に対する負担感、拘束感が大きいから	16.4%
若者の経済的自立が難しくなったから	13.5%

# 令和5年度結婚等に関する県民意識調査結果（中間報告）の概要

## 結婚生活を送っていくうえでの不安（複数回答）

- 全体では「経済的に十分な生活ができるか」が60.1%と最も高く、性別でみても男女とも最も高い。
- 女性の「出産・子育て」「配偶者との家事・育児分担」「配偶者の親族とのつきあい」「配偶者や自分の親の介護」が男性と比べて高い。

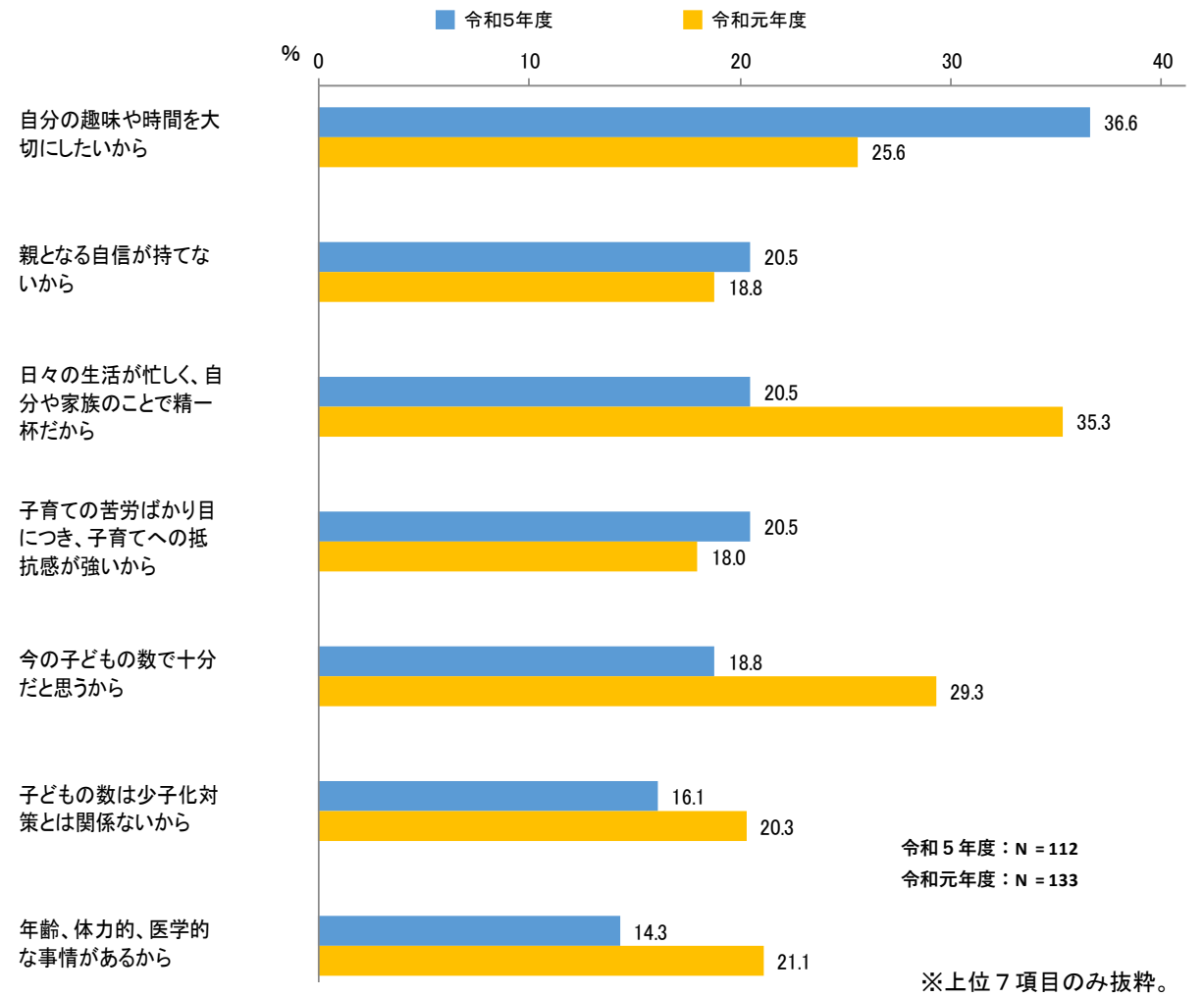
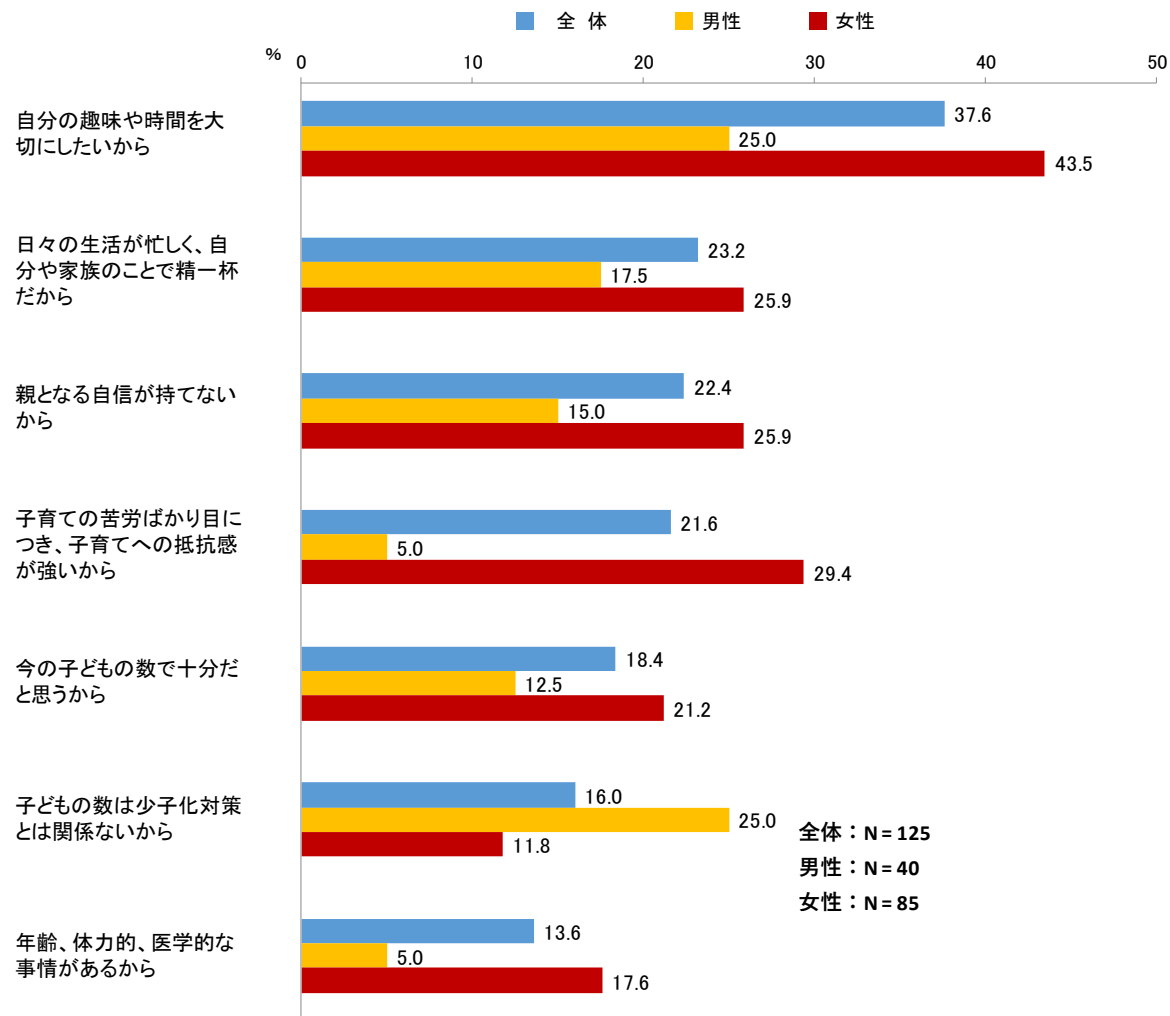


※上位8項目のみ抜粋。

# 令和5年度結婚等に関する県民意識調査結果（中間報告）の概要

## 少子化対策を拡充しても、（もう1人）子どもが欲しいという気持ちにならない理由（複数回答）

- 全体では「自分の趣味や時間を大切にしたいから」が37.6%と最も高い。
- 男性では「自分の趣味や時間を大切にしたいから」「子どもの数は少子化対策とは関係ないから」が25.0%、女性では「自分の趣味や時間を大切にしたいから」が43.5%で最も高い。



※上位7項目のみ抜粋。